

会 議 記 録

名 称		中央区スポーツ推進審議会
開催年月日・場所		令和８年７月１５日（水曜日） 午前１０時００分から午前１１時００分まで 中央区役所本庁 ８階 大会議室
出席者の氏名	委 員	(出席委員) 近藤 智靖（会長）、坂なつこ（副会長）、ヨーコ ゼッターランド、深川 史麻、 山主 英樹、木本 慎一、森田 俊秀、濱田 徹、北澤 千恵子、平松 功治、浮津 健史
	区側出席者	平岡スポーツ課長、高橋スポーツ施設係長、小貫スポーツ事業係長、 日下スポーツ施設整備担当係長、菊池主事
	委託会社	株式会社サーベイリサーチセンター 宮口氏
配付資料		１ 令和８年度第２回中央区スポーツ推進審議会次第 ２ 議題資料 「スポーツ推進ビジョン」の改定関係資料 資料１ 次期ビジョンにおける数値目標について（追加分） 資料２ 中央区スポーツ推進ビジョン骨子案 資料３ 施策体系案
議事の概要		１ 開会 ２ （１）「中央区スポーツ推進ビジョン」の改定について ア 次期ビジョンにおける数値目標について（追加分） イ 次期ビジョンの骨子案について （２）その他 ３ 閉会
審議の経過		別紙のとおり

令和8年度第2回スポーツ推進審議会会議録

令和8年7月15日

午前10時～午前11時

中央区役所8階大会議室

1 開 会

- 近藤会長の開会宣言により開会
- 会長が、委員の定足数を充たし、本日の会議が有効に成立していることを報告
- 会長が、前回からの継続審議が1件あることを報告

2 「中央区スポーツ推進ビジョン」の改定についての審議

- 会長が、「中央区スポーツ推進ビジョン」の改定について審議するにあたり、事務局からの説明を指示
- 事務局（スポーツ課長）が、中央区スポーツ推進ビジョンの改定について、『次期ビジョンにおける数値目標について（追加分）』及び『次期ビジョンの骨子案について』について説明

○ 委員からの意見・質問

- ・公式LINEを通じて様々な情報発信をされているが、アンケート調査によるとSNSで情報収集をしている割合は広報紙を下回っている。このアンケートにLINEの発信は含まれていないのか。

➡広報紙は情報発信の基軸となっているが、紙面に限りがあり、すべての情報を記載することは難しいため、詳細を掲載している区ホームページやSNSにアクセスできる二次元コードを併記する等の工夫をしている。SNSの利用者が増えておりSNSの効果は把握しているため、ターゲットを見極めて引き続き対応していきたい。アンケートの項目にLINEの発信は含まれている。（スポーツ課長）

- ・神奈川県ではInstagramを使用しており、若年層をターゲットとしている。対象によって媒体を使い分けることが必要だと思う。

- ・資料2の26頁、区が主催する大会等へ参加しなかった理由として「興味がないから」が2番目に多くなっている。その人たちが何に興味がある等、それ以上の深堀はしていないのか。

➡アンケート調査の深堀は行っていない。教室や大会等の場で参加理由や興味のあること等のアンケートは取っており、そうした意見を指導者にフィードバックすることが重要と考えている。様々な意見を取り込んで多くの人に参加してもらい満足度を上げること、興味を持ってもらうことが大切であり、PDCAとなるよう対応していきたい。（スポーツ課長）

- ・興味のない人でも間接的にスポーツにつながると興味を持つこともあるため、参加者を増やす取組として違うアプローチも検討してほしい。

- ・資料2の26～27頁、区が主催する大会へ参加しなかった理由として仲間がいない、年を取った、初心者にはハードルが高いといった意見が挙げられている。スポーツイベントは同じ内容を踏襲する傾向があるが、こうした意見がある以上、種目や募集方法等を大きく変更することが参加率の上昇につながるのではないか。大会等に興味がない人もボランティアの間口を広げる等、別のアプローチを行うことでスポーツに関わるきっかけになるのではないか。

- ➡間口を広げる、興味を持ってもらうという視点が必要になると感じている。既存の大会や教室でもメニューに満足していない方もいると考えられるため、意見を聞いてフィードバックを行い、メニューを広げていく必要がある。体験や見る機会を増やすことが必要と考える。(スポーツ課長)

- ・既存メニューを気に入っている方からすると変化が逆に不参加につながってしまうことも懸念されるため、両立は大変だと思われるが検討してほしい。

- ・資料2の21頁、小中学生の体力結果について、10年前と比べて中央区は体力が低くなっている傾向が見られるが、全国や東京都でも同様の傾向があるのか。

- ➡バックデータがないため、回答は差し控えていただく。(スポーツ課長)

- ・子どもの体力は昭和終期と比べて低くなっている傾向がある。コロナ禍に全国的に体力が低下したものの近年は回復傾向が見られており、中央区も他自治体と同様に回復途中と考えられる。全国的にはスクリーンタイムの増加や日常的な活動量が少ない生活様式が定着したことから体力が低下したと考えられている。なお、体力テストの実施時期等によって同じ学年でも結果に差が生じることがあるため結果に一喜一憂する必要はないが、体育の授業以外で運動する時間が減少することは今後も見込まれるため、現場の先生の実感を大切にしつつ、体力テストの結果を注視していく必要はある。

- ・子どものスポーツ活動は保護者の影響が大きい傾向にある。区の主催するスポーツ教室でも、小学校低学年は参加理由としては保護者の意向が強く、高学年になると中央区の特性として通塾を理由にスポーツから離れる傾向がうかがえる。子どものスポーツ活動の推進において、保護者への働きかけが必要になるのではないか。また、十年程前から公園での球技が禁止されており、チームに入らないとスポーツができない環境になっている。日常生活で体を使う機会も減少しており、タオルを絞る、ほうきを使うといったような日常のちょっとした動作で子どもの体を作っていくことが大切だと感じている。体系図に記載された課題については、それぞれが独立しているのではなく結びついていくものだと思うので、連動性についても反映できると良いのではないか。

- ➡すべての施策に課題が複合的に紐づいているという視点をもって施策を進めていきたい。保護者への働きかけ等、現在の子どものスポーツを取り巻く状況についても同様の認識である。(スポーツ課長)

- ・小中学生のスポーツは体育や学校教育と連携する必要がある。塾とスポーツクラブの両立でスケジュールが過密になり、結果としてスポーツをやめる子どもが増えることは当然であるため、スポーツの価値を大人が語っていくことが大切である。

- ・小学生と中学生の障害者スポーツへの関心の高さは好ましい結果だと感じたため、今後も伸ばして行ってほしい。資料2の38頁、課題4について、下から5行目に「全ての人为一体となり」とあるが、表現が強いため「ともに」、「一緒に」程度に留めるのが良いように感じる。また、自分が実践したいというよりもトップアスリートから指導を受けたい、技術的な向上を目指したいという要望が高いと感じる。現場は指導者不足だが、ボランティア活動に参加する人は多い。引退した中央区在住のアスリートに地域の指導にあたってもらうことで、トップアスリートの存在を身近に感じる機会をつくってはどうか。

➡38頁の表現の件は検討したい。トップアスリートに関する事業としては、クボタスピアーズ船橋・東京ベイを招いてのラグラグビー体験会を実施しており、子どものスポーツへの参画のきっかけになったことは価値のある一歩だったと捉えている。こうした事業の継続的な展開を検討しており、区民スポーツの日には選手を招致し、体験指導を受ける機会の提供を引き続き行っていきたい。(スポーツ課長)

- ・著名な区内在住アスリートに協力を依頼し、事業を展開してほしい。

➡実際に区民スポーツの日に出席してもらうなど事業に協力いただいた実績もある。区内在住の方は数少ないため、身近な人がもっと参画できるよう検討していきたい。(スポーツ課長)

○「中央区スポーツ推進ビジョン」の改定は今後も引き続き審議する予定

○ 会長から最後に事務局からの連絡事項がないか確認

○ 第3回審議会は9月14日(月)に開催を検討している旨報告

3 閉 会

○ 会長より閉会の挨拶により終了